

3・3 アジア船主協会(ASA)

3・3・1 ASA 総会

ASA は、アセアン(タイ)船協の主催により、2019年5月27日から28日にかけて、バンコクで第28回総会を開催した。当協会から、武藤光一会長、廣瀬隆史・磯田裕治両副会長、當舎裕己理事、小野芳清理事長らが出席した他、アジア8地域、13船協(日本、韓国、中国、台湾、香港、ASEAN(ブルネイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム)、豪州)から約220名が参加した。

ASA は、1992年に第1回総会(当協会主催)を開催して以来、メンバー国/地域の船主協会が北から南の順で毎年議長を回り持ちしながら総会を開催しており、毎年の年次総会の際に5つの常設委員会(船員(SC)、船舶保険・法務(SILC)、航行安全・環境(SNEC)、海運政策(SPC)、シップリサイクリング(SRC))がそれぞれ中間会合を開催している。5つの常設委員会の構成および各委員会への当協会代表(2019年5月28日時点)は【資料 3-3-1-1】のとおりである。

第28回ASA総会では、総会前に各常設委員会が個別会合を開催し、各委員会の主要課題に関する直近の状況について意見交換された。その後の総会においては、前年度決算・当該年度予算や次期正副会長等、ASAの組織に関する事項が審議・了承された他、賛助会員資格新設とそれに伴う定款の改正が了承された。また、各委員会委員長より1年間の活動概要が報告された。総会の後には、ICS等の国際海運団体や、造船・船級団体等と意見交換する「 SHIPPING・フォーラム」および、将来の海運業回を担う若手交流のためのセミナーである「 SHIPPING・ヤングエグゼクティブス」が開催され、海運に関する主要課題について活発な議論が行われた。

総会終了後には、海上労働条約、環境保護に係るIMO規制、油濁補償関連条約、保護主義貿易、シップリサイクル等に関するASAの意見をまとめたプレスリリース(【資料 3-3-1-2】参照)が発表された。

次回第29回総会は、当初2020年5月に豪州船主協会連合の主催により、ダーウィンにおいて開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴いWeb会議システムを使用し開催されることとなっている。

3・3・2 ASA 会長会議

ASA加盟船協会長で構成されるASA会長会議は、2019年5月27日にバンコクでASA総会に併せ第25回会合を、同年12月4日にシドニーで第26回会合をそれぞれ開催した。

いずれの会長会議も、予算執行状況、次年度予算案といったASAの運営に関わる問題と、他地域団体との連携強化などのASAの組織拡充、活動活性化に向けた方策について議論された他、各常設委員会の活動について意見交換された。25回会合では、年次総会での承認に先立ち、賛助会員資格新設とそれに伴う定款の改正案が審議された。

また、対面の会合に加え、2019年8月、9月、2020年3月には電話での会長会議を行い、事務局運営問題や新型コロナウイルス問題への対処などについて検討・決定を行った。

3・3・3 各委員会における活動状況

1. 海運政策委員会(SPC)中間会合、船舶保険・法務委員会(SILC)中間会合、航行安全・環境委員会(SNEC)中間会合、シップリサイクリング委員会(SRC)中間会合

船員委員会(SC)以外の各委員会の中間会合は、何れも新型コロナウイルスの感染拡大を受け、当初予定(2020年3月中)から延期の上、書面やWeb等を活用して直接対面を伴わない方法で、4月に開催予定である。

2. 船員委員会(SC)中間会合

船員委員会(Seafarers Committee:SC)は2019年10月22日に中国・上海で第25回中間会合を開催した。同会合では、日本、中国、台湾、香港、ASEAN(フィリピン、タイ)の各船協が出席し、Han Chao 委員長(中国船協)の下、船員確保の現状、国際労働機関(ILO)海上労働条約や、船員の訓練および資格証明並びに当直の基準に関する国際条約(STCW 条約)改正に係る各国の取り組み状況、船員のメンタルヘルス、船舶の自動化・デジタル化、船上インターネット環境、海運業界でのジェンダー平等などについて意見交換が行われた。